

≪今朝の聖書から≫ 聖書箇所を読み進めましょう。
 35節以降は、信仰に生き、救われたことを確信している者への勧めです。私たちは、“もう信仰から離れることはあり得ない”と全身で恵を感じるときもありますし、“本当に私は、神様によって救われているのだろうか”と思ったりもするものです。これはずいぶん、緊張を伴う毎日のように聞こえますが、多くの悩みを経験した信仰者は、悩みの種でしかなかった多くのことが、決して無駄ではなかったと知ることが出来るのです。そのたびに成長すると言っても良いでしょう。主は、来るべき時のために、“出来るときにしておきなさい”とおっしゃっているのです。39節を見て見ましょう。この物語は喩えですが、“盗賊”に喩えられているのは为什么呢。もちろん環境のことも意味していると思いますが、心の中に現れる誘惑のことでしょう。誘惑や試練によって、教会から、そして信仰からはなれてしまっただけでイエス様が見えなくなるときがあるかも知れないというのです。また“家”というのは教会のことでしょう。魅力や誘惑や試練が、主の言葉以上に勝っているなら、主の言葉を受け入れないで、まるで歓迎でもするかのようになり、盗賊の方を迎え入れてしまうのです。“そんなことがあるのであなたがたも注意しなさい”と40節以降に勧めは続きます。“人の子がやってくる”というのは、天国の世界がひらける、あるいは終末の時がやってくるということですが、人生における決定的な時ということも出来るでしょう。その一つの時が、病気のときや、体が弱くなったときです。元気なときにはなんとでもなかった事柄が（そんなことは、信仰とは関係ないと思えたことが）、私たちの内に、一番強く“試み”として力を持ってくるのです。今から覚えておきたいのがそのことです。色々あるでしょうが、最後まで、イエス様から離れなかった人を、限りなく優しく見てくださっているのです。41節で、ペテロは“この戒めは誰に対するものか”と質問しています。答えは“あなたがたです（42節）”というものでした。44節で“そのような人に教会の管理を委ねること”を宣言されます。しかし、絢爛豪華で政治的権力もある教会を、中世の一部の教会がそうであったように、目指してしまったら、“当分、天国は来ないから、裕福な教会を建てよう”と思ってしまうことになるのです。47節のことが現実起こるでしょう。37節にあるように、主人の方に、私たちが給餌をしていただけたことが、贖いの約束として証しされているのです。

週報

2007年 8月 12日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
 使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸